

令和5年度 教育論文

自分の意見や考えを英語で発信する生徒の育成 ～技能統合型の言語活動の実践を通して～



Disaster Prevention Guidebook for Mr. Daniel

from [Rinako Nagata]

Do you like Kochi town? I want you to like our town. But many disasters have happened before. Today, I'll tell you about the measures. We have to be careful of disasters.

First, do you know what to do in a disaster? I think there are three important things. You have to protect your head, follow instructions and act as soon as you can. It's very important for us to survive in a disaster.

Second, I'll tell you about what to put in an emergency kit. Though I want to bring a lot of things, I can't. So, I introduce just three things chosen by me. There are water, towel and mobile battery. I want to live safe in case of a disaster. I think these are necessary for us. If I have them, I can feel relaxed. How about preparing them?

Third, I think it's good to hand out a pamphlet. It's about local shelter, where dangerous places are and what to prepare in an emergency kit. I want to know the information if I were a foreign person. So, I want Kochi town to make it.

As mentioned above, there are three important things in case of a disaster. I think disasters will happen in the future. Let's prepare for it together!

Today's Goal	Feedback
1 単元のゴールをメモしよう。	<i>If you want to make an interesting video, I think I have to ask some questions and be careful of my expressions. I'll collect information to make a video.</i>
2 ガンジーに関するジョシウの発表を聞いて整理した内容に基づき、自分の意見や考えを交えながらガンジーのことを他者へ伝えよう。	<i>I think he is a person who is respected by many people. I want October 2 will be a holiday in Japan, too. I think it should be holiday. Today, I told my friends about Gandhi. He had a lot of interesting ideas. I was surprised I want to know when Gandhi did. My speech will be prepared if I know about it.</i>
3 ジョシウと新聞の対話を聞いて整理した内容に基づき、自分の意見や考えを交えながらガンジーのことを他者へ伝えよう。	<i>I think Gandhi's facts are very hard. I don't want to do it even if I try to do. I want to know why Gandhi did it. I'm sure that he had a big and important reason. I heard he worked for Indian independence. Why did he work for it? I also want to know the reason.</i>
4 南アフリカでのガンジーの功績に関する伝記を読んで把握した内容に基づき、自分の意見や考えを交えながらガンジーのことを他者へ伝えよう。	<i>I think he is a great person. He used the non-violence to protect their rights and never gave up. If the new unfair law was made, if I were he, I would give up because it is very hard for me. I want to be tough and I want to know why he didn't give up.</i>
5 インドでのガンジーの功績に関する伝記を読んで把握した内容に基づき、自分の意見や考えを交えながらガンジーのことを他者へ伝えよう。	<i>I think Gandhi had a tough mind and strong body. He could work for 40 hours. I was surprised to know about it first. Why he said such a thing? How long did he do? Well, I want to know. I think it is difficult to express about Gandhi with one word. I'll do my best!</i>
6 単元の学習を振り返り、次の単元へつなげよう。	<i>この単元の構成を考え、意見文や教科書本文の授業で学んだ内容を、自分の考えや感想を交えて発表しました。発表の準備や発表の振り返りを通して、自分の学習内容を振り返ることができました。今回の単元の振り返りを通して、自分の学習内容を振り返ることができました。発表の準備や発表の振り返りを通して、自分の学習内容を振り返ることができました。</i>

Unit5 総合評価 (S1)

はじめに

コロナ禍で学校が休校になった期間、「学校」と「教師」の存在意義を見つめ直しました。教科に関する表面的な知識だけを学ぶのであれば、生徒はインターネットを使って学ぶことができます。生徒はわざわざ学校に来る必要もなく、教師に頼る必要もありません。そういう時代になった、と一言で片付けてしまえば楽ですが、そういう時代だからこそ、「学校」と「教師」にできることは何かと真剣に考えるようになりました。

私の中で出た答えは、「教室の中にいる多様な価値観をもった者同士が意見を交わし、みんなで何か一つのを創り上げること」でした。それ以降は、学校にしかできない、学校でしかできない活動を授業の中でいかにして生み出していくかという視点で授業研究に取り組んできました。

特に本研究では、自分の意見や考えを英語で発信する力の育成に焦点を当て、検証を進めてきました。人工知能 (AI) にはできない、「自分が把握した情報に対して考えを形成し、その考えを他者と共有し、練り上げ、表現していく力」を、これからの未来を生きていく生徒につけてほしいという願いが込められています。

今回、私自身の英語科授業の中で実践した内容をささやかですが論文にまとめました。研究は道半ばで試行錯誤しながら取り組んでいるところです。はっきりと成果が出たと言える段階ではありませんが、生徒の変容を通し、少しずつ手応えを感じています。今後も研究を継続していき、授業力の向上を図り、生徒とともに成長していきたいと考えています。

はじめに

目次

I 研究主題について	p 1
1 研究主題	p 1
2 主題設定の理由	p 1
(1) 教育の今日的課題から	
(2) 学習指導要領から	
(3) 本校の教育目標から	
(4) 生徒の実態から	
3 研究主題の捉え方	p 2
(1) 「自分の意見や考えを英語で発信する」とは	
(2) 「技能統合型の言語活動」とは	
II 研究の構想	p 3
1 研究の仮説	
2 研究の視点	
3 研究の構想図	
III 研究の実際	
1 実践Ⅰ「Unit2 Haiku in English」	p 5
(1) 実践の概要	
(2) 授業の実際 (第1次)	
(3) 授業の実際 (第2次)	
(4) 授業の実際 (第3次)	
2 実践Ⅱ「Unit4 Be Prepared and Work Together」	p 8
(1) 実践の概要	
(2) 授業の実際 (第1次)	
(3) 授業の実際 (第2次)	
(4) 授業の実際 (第3次)	
3 実践Ⅲ「Unit5 A Legacy for Peace」	p 13
(1) 実践の概要	
(2) 授業の実際 (第1次)	
(3) 授業の実際 (第2次)	
(4) 授業の実際 (第3次)	
IV 研究の成果と課題	
1 研究の成果	p 19
2 研究の課題	p 20

おわりに

参考文献

I 研究主題について

1 研究主題

自分の意見や考えを英語で発信する生徒の育成 ～技能統合型の言語活動の実践を通して～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

子どもたちが生きていくこれからの時代は、多様な他者と協働して課題を解決する姿勢や、「正解のない問題」に対する最適解を見出す力が求められている。こうした状況を踏まえ、平成29年改訂の学習指導要領では、育成すべき資質・能力が以下の3つに整理された。

ア。「何を理解しているか、何ができるか」(生きて働く「知識・技能」の習得)

イ。「理解していること・できることをどう使うか」(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)

ウ。「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

また、これからの時代に求められる資質・能力の育成につながる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を示している。以上のことから、子どもたちがこれからの社会をよりよく生きるために必要な資質・能力を育む授業づくりが求められている。

(2) 学習指導要領から

中学校学習指導要領解説外国語編(平成29年7月)(以下解説)では、次のように目標が設定されている。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

文部科学省「平成28年度英語教育改善のための英語力調査報告書」(平成29年3月)では、「話す」「書く」に関わる言語活動や、技能統合型の言語活動が不足していると述べられている。そのため、生徒が自分の思い等を話したり書いたりする機会の確保、複数の技能を関連付けて行う指導の工夫などの改善が求められている。

本研究は、技能統合型の言語活動を充実させ、自分の意見や考えを英語で発信する生徒の育成を目指すものである。このことは、今日の英語教育の課題に関するものであり、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する上で意義深いと考え、本主題を設定した。

(3) 本校の教育目標から

本年度の学校教育目標は、「夢を育み、主体的に未来を生きる生徒の育成」である。めざす生徒の姿として、「自ら学ぶ意欲をもち、思考力・表現力豊かな生徒」「自他の命を大切に、豊かでたくましい心をもった健康的な生徒」「ふるさとに誇りをもち、周囲の人に感謝する生徒」を掲げている。そのためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すという視点だけではなく、「生徒の将来に生きて働く本当の学力をどう高めるのか」という視点での授業改善も大切であると考え。よって、目指す生徒像の実現に向けて研究を進めることが、学校教育目標の具現化につながると考えた。

(4) 生徒の実態から

図1は、令和5年3月に当時2年生を対象に行った、英語学習に関するアンケート結果である。この結果から、約6割の生徒が自分の意見や考えをまとまりのある英語で話したり書いたりすることに苦手意識があることが分かる。その理由として、図2に示すような記述が見られた。

以上のことから、既習事項を活用し、自分の意見や考えを英語で話したり書いたりする言語活動の充実が重要と考える。また、意見や考えを形成するための対話活動を中心に据え、授業改善に取り組むこととした。

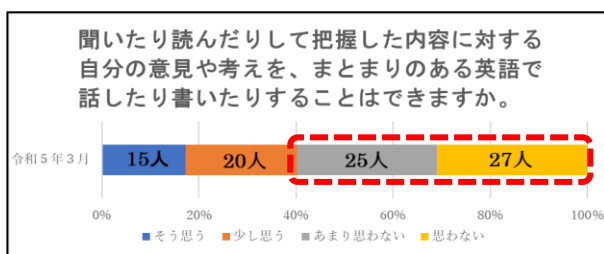


図1 英語学習アンケート

- 話題が難しく、そもそも考えが浮かばない。
- まとまりのある英語はハードルが高い。
- 教科書の題材にあまり関心がない。
- 習った文法や表現を忘れてしている。

図2 生徒の記述

3 研究主題の捉え方

(1) 自分の意見や考えを英語で発信するとは

解説では、自分の思いや考えを外国語で表現し伝え合うためには、「他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、自分の考えなどを形成し、適切な言語材料を選択して表現し、伝え合うことが重要である」と述べられている。そのためには、生徒が他者意識をもつような、かつ学習した語彙や表現等を実際に活用することができる具体的な課題の設定が必要不可欠である。

以上より、本研究における「自分の意見や考えを英語で発信する」とは、「相手が存在するコミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、今までに学んだ表現を使って自分が感じたことや考えたことを書いたり話したりすること」と捉えた。

(2) 技能統合型の言語活動とは

なぜ「技能統合型の言語活動」が必要なのか。実際の生活を振り返ると、私たちは聞いたり読んだりする際、メモをとるなどして考え等を整理し、文章として書いたり、口頭で表現したりしている。そのような視点で英語の授業を捉え直すと、実際の生活において必要な場面を想定し、自分の意見や感想などを他者との対話によって深め、話したり書いたりする言語活動を行うことが自然である。解説では、技能統合型の言語活動の例が示されている。

オ. 話すこと

(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。

カ. 書くこと

(エ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。

以上より、本研究における「技能統合型の言語活動」とは、「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを話したり書いたりする活動」と捉えた。

II 研究の構想

1 研究の仮説

英語科学習において教科書教材を扱う際、社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを話したり書いたりする活動を行えば、自分の意見や考えを英語で発信する力を育成することができるだろう。

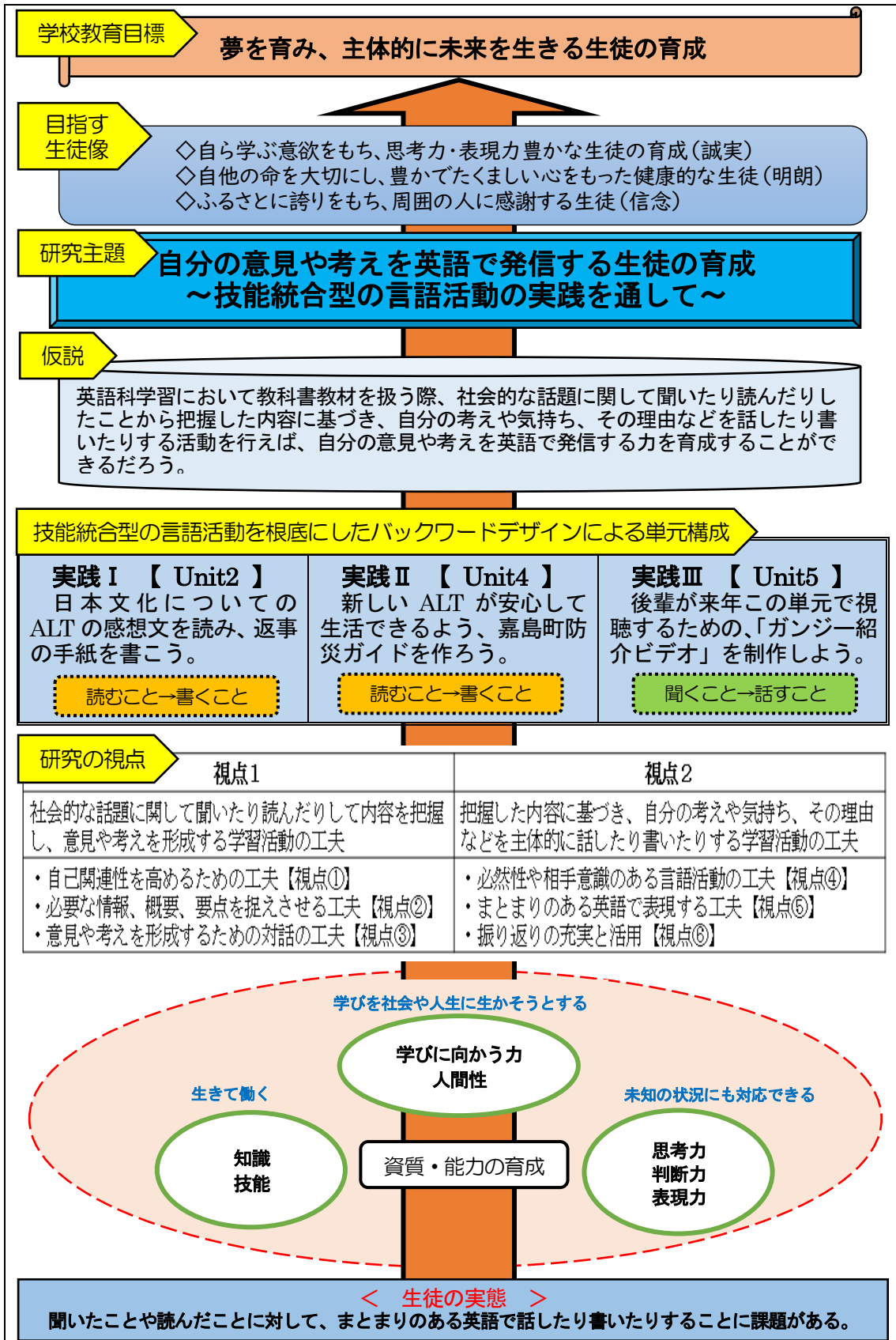
2 研究の視点

仮説を検証するために設定した研究の視点を図3に示す。この2つの視点に基づき、以下に示した具体的実践事項（【視点①～⑥】）を軸とし、研究を進めていった。

視点1	視点2
社会的な話題に関して聞いたり読んだりして内容を把握し、意見や考えを形成する学習活動の工夫	把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを主体的に話したり書いたりする学習活動の工夫
・自己関連性を高めるための工夫【視点①】 ・必要な情報、概要、要点を捉えさせる工夫【視点②】 ・意見や考えを形成するための対話の工夫【視点③】	・必然性や相手意識のある言語活動の工夫【視点④】 ・まとまりのある英語で表現する工夫【視点⑤】 ・振り返りの充実と活用【視点⑥】

図3 研究の視点

3 研究の構想図



III 研究の実践 ※本研究論文の中で出てくる生徒の氏名はすべて仮名である。

1 実践I 「Unit2 Haiku in English」(令和5年5月実施)

(1) 実践の概要

本単元で扱う教科書教材『Haiku in English』は、日本文化の一つである俳句が、世界でも人気があること、英語詩との相違点や英語俳句の書き方等が書かれている。社会的な話題について書かれた英文を「読み」、自分の意見や考えを「書く」という言語活動を中心に据え、単元を構成した。

(2) 授業の実際(第1次)

教科書教材の内容は、社会的な話題が多く、生徒にとって馴染みのないものが多い。そこで題材への自己関連を促すため、生徒に馴染みのある日本文化と題材である俳句を関連付ける工夫をした(【視点①】)。まずは、マッピングを行って身近にある日本文化を整理した。この段階ではマンガやアニメ、ゲームといったいわゆるポップカルチャーに関するものが多かった。その後、生徒が国語科の授業で書いた俳句の作品を数点紹介し、ウェブサイトに掲載されている英語俳句も示すと、生徒は驚きの声を上げていた。

美優という生徒が書いた振り返りの一部を図4に示す。美優は自分が好きなアニメと俳句を関連付けていることが分かる。このように、題材について生徒の身近な話題から具体を考え、自分との関連を

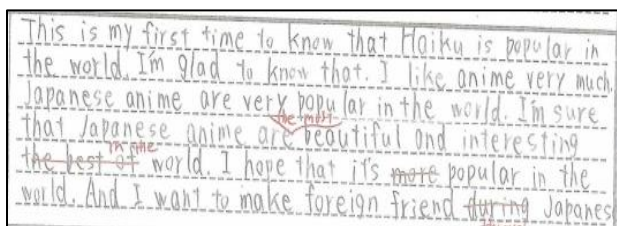


図4 美優が書いた振り返り

考えさせたことで、教科書の題材を自分事として考えるための素地を作ることができた。

ここからは、社会的な話題を読み、自分の意見や考えをまとまりのある英語で書く活動の実践(Unit2 Read and Think2)を記す。登場人物のALTがスピーチを行った際の前稿文(図

Reading②【要点】

ペーカー先生が海斗たちに1番伝えたい文はどこだろう？

People outside Japan have been writing their own haiku for many years. Haiku in English have become quite popular because they're short and easy to write. The rules for English haiku are less strict than the Japanese rules. For example, a seasonal word is not always necessary. It's not always necessary to count syllables, either.

Haiku in English are not only easy to write, but also easy to read. Actually, there are a lot of haiku websites. There are so many sites that you can even find birthday haiku or pop culture haiku. It may be a fun way to learn English.

図5 Unit2 Read and Think2

5)を読み、「ペーカー先生が海斗たちに一番伝えたい文はどこだろう」という要点を捉える発問を行った。英文を読む際には、図6に示す「英文の読み方」を黒板に掲示しておき、生徒が常に英文の読み方を意識できるようにした(【視点②】)。

英文の読み方

英文を読み取る方法は3種類

①「 必要な情報 」を読み取る	②「 概要 」(大まかな内容)を読み取る
③「 要点 」(一番大切なこと)を読み取る	③「 要点 」(一番大切なこと)を読み取る

①「必要な情報」を読み取る
・場面、状況を意識し、予想してから読む。
・自分が必要とする情報(数字や天気などのキーワード)が何かを事前に把握し、意識してから読む。

②「概要」(大まかな内容)を読み取る
・5W1Hを意識して読む。
・図や表を頼りにしながら読む。
・時系列で書かれた文章は、時を表す語句に注目する。
・各段落の最初の1~2文をまず読んでみる。
・First, Second, Third, などの語句に注目する。

③「要点」(一番大切なこと)を読み取る
・タイトルなどから、筆者が伝えたいことは何かを予想したうえで読む。
・So, Therefore, In conclusion, In my opinion, The most important thing is -, など結論等を表す語句に注目して読む。

図6 掲示した英文の読み方

その時の授業記録の一部を図7に示す。教師の発問(①)に対し、S1は「俳句は海外でも人気がある」という点に着目した(②)。他の生徒に対して意見を求めると、S2は③のように、「It(ウェブサイトの俳句を活用すること) may be a fun way to learn English.」を要点と捉えた。その後、ベーカー先生の仕事を尋ねる補助発問(④)に対し、ALTは英語を教える仕事であるという視点をもったS2は、「生徒に英語の勉強をしてほしいのでは」(⑤)と考え、英文の要点を捉えていた。

T : ①What is the main point of his speech?
 S1 : The main point is ②“People outside Japan have been writing haiku for many years.”
 T : I see. Why do you think so?
 S1 : Because he wants to say, 俳句が人気
 T : That’s a nice point. What do you think?
 S2 : I think the main point is ③“It may be a fun way to learn English.”
 T : That’s nice. Why do you think so?
 S2 : Well, なんとなく。
 T : No problem. ④What is Mr. Baker’s job?
 生徒 : ALT, teacher!
 T : So, what does he want students to do?
 S2 : ⑤Study English.
 T : Great. So, the main point is ...
 S2 : “It may be a fun way to learn English.”

図7 第5時の授業記録(Tは教師、Sは生徒を示す)

次に、読んで把握した内容に関する自分の考え等を英語で書く活動に取り組んだ。その際、「①発問に対する自分の考え等をもつ→②対話を通して意見を再構築する」という対話を重視した手順を踏み(【視点③】)、まとまりのある英語を書く活動になげることとした。ここでは、先述の要点に焦点を当て、「Mr. Baker says, “It may be a fun way to learn English.” Do you agree with him?」と発問した。ペアで互いの意見を複数回英語

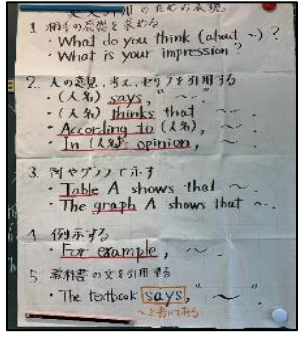


図8 引用のための表現

で述べ合う中で新たな考えに触れた際、生徒からは「なるほど」、「それ使わせてもらおうね」という声が聞かれた。その後、自分の考え等を英語で書いた。その際、図8に示す「英文引用のための表現」を黒板に掲示し、生徒が教科書の内容や友人の発言を引用することで、内容面でまとまりのある英文を書けるようにした(【視点⑤】)。

図9は、朱里という生徒が書いた英文である。朱里は教科書の内容を引用しつつ(下線①)、自分の考え等を書いている。対話を通して考えを形成し、引用する際の表現を活用したことで、内容面でまとまりのある英文を書くことができたと考えられる。

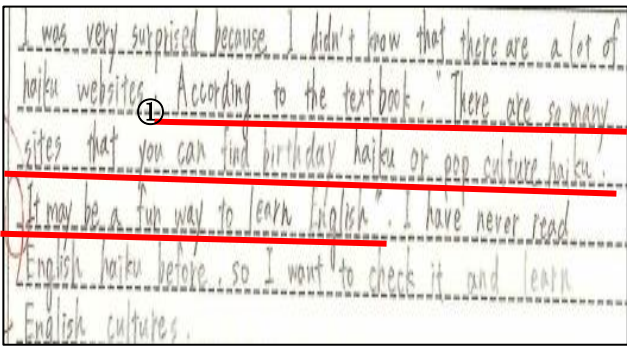


図9 朱里が書いた英文

生徒が書いた英文の中で、学年全体で共有したいものは、クラスを問わずに他クラスで紹介したり、自分の書いた英文を生徒自身が全体の前で読んだりする時間を確保した（【視点⑥】）。生徒の振り返りにこのような価値付けをすることで、生徒は自分の考えや英語表現に自信をもち、周囲の生徒も自分との相違点に気付き新しい考えが芽生えてくる。また、生徒は同級生の頑張る姿に刺激を受け、次の活動では友人が使用していた英語表現を引用するなどしてより質の高い英文を書くなど、学びの好循環につながった。

(3) 授業の実際（第2次）

第2次では、教科書の内容に対する本校勤務のALTの考えが書かれた英文（図10）を読み、返事の手紙を書いた。返事の手紙を書くというコミュニケーションの目的を設定し、言語活動の必然性や相手意識を高めた（【視点④】）。図11が活動の手順である。

以下はUnit2を読み終えたスペンサー先生の感想文です。これを読み、スペンサー先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で書きなさい。

I have finished reading Unit 2. According to the textbook, people outside Japan have been writing their own haiku for many years. I'm very glad to know that because I am very interested in Japanese culture. Actually, I have been learning about it since I came to Japan. I think haiku have many good points such as seasonal words or the rhythm. I'm sure that haiku will be more popular in the world. What do you think? Do you think that haiku will be more popular in the world? Why or why not?

図10 ALTが書いた感想

内容面でまとまりのある英文を書くため、活動8では言語の働きに着目させた（【視点⑤】）。解説では言語の働きが示されており、「(ウ) 事実・情報を伝える役割」と「(エ) 考えや意図を伝える役割」に焦点を当てて指導を行った。「事実」と「考え」を区別することで、読み手にとって読みやすい手紙につながると考えた。生徒は、「事実」には赤線を、「考え」には青線を引いた。その結果、手紙の内容の再構築を図る姿が見られた。修平という生徒が書いた手紙の一部を図12に示す。修平は、自分の考えに理由付けを行うために文の順番を入れ替えている。また、自分の考えに対する理由部分を、教科書で学んだ事実を引用して書いている。この授業の修平の振り返りを図13に示す。この記述から、言語の働きに着目し、内容面・言語面での向上を図ろうとしていることがわかる。

1. 質問に対する自分の意見や考えをもつ
2. 数名の生徒と教師でやり取りを行う
3. 横ペアでやり取りを行う
4. 中間指導
5. 縦ペアで再度やり取りを行う
6. ライティングの構成をメモでまとめる
7. ALTに向けて英語で手紙を書く
8. 「事実」に赤線、「考え」に青線を引く
9. 互いの手紙を読み、改善点を出し合う
10. 内容面・形式面での向上を図る

図11 活動の手順

Japanese.

① I'm not good at English.

② So, I'm studying English.

③ I'm surprised to know that ~~there~~ ^{there} are so many sites that you can even find ~~birth~~ ^{haiku} haiku or seasonal haiku.

④ I have never ~~try~~ ^{job} English haiku, because

図12 修平が書いた手紙の一部

(4) 授業の実際（第3次）

ここでは、単元を振り返り、互いの手紙を読み合う時間を確保した（【視点⑥】）。

前はあまり教科書の文を入れることができなかったから、
 今、自分の学んだ文を多くしたい。そのために、いろんな
 単語が使えるように入力して練習する。

図13 修平が書いた振り返り

振り返りは生徒が自己の成長を実感し、それ以降の学習の動機づけにつながるものである。また、教師にとっても、生徒の振り返りを通して

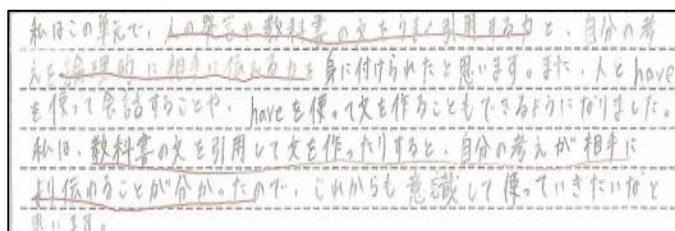


図14 生徒の振り返り

生徒全員の考えや困り感、挑戦意欲などを把握することができるので、指導と評価の一体化には不可欠なものである。図14に提示した振り返りの記述から、生徒が自己の成長を実感していることがわかる。また、ALTに向けた手紙を互いに読み合う中で、「〇〇君は don't の方（俳句がこれから先も人気になるとは思わない）だけど、日本の俳句のいいところも書いていていいと思った。」という発言も見られた。これは、友人の表現方法に着目し、自分に取り入れようとする意欲の表れであると考えられる。

実践Ⅰの段階では、社会的な話題について書かれた英文を読んで内容を把握し、自分の意見や考えを英語で書くための素地を作ることができた。しかし、同時に研究の視点に関する課題も三点浮き彫りになった。その三点を、以下に示す。

①「自己関連性を高めるための工夫」（【視点①】）

単元末の振り返りの中に、「この単元で俳句に興味が出てくるかなと思ったけど、最後まであまり興味が湧かなかった」といった記述も見られ、社会的な話題に関して全員が自己関連をできていたわけではなかった。

②「意見や考えを形成するための対話の工夫」（【視点③】）

読んで把握した内容に関して対話の場を設定したことで、生徒は意見や考えをもちやすくなった。しかし、対話を通して意見を再構築する段階には至らなかった。

③「まとまりのある英語で表現する工夫」（【視点⑤】）

生徒はある程度まとまった量の英語を書くことはできていたものの、情報が羅列的であったり、話題が焦点化されていなかったりといった課題が見られた。

2 実践Ⅱ「Unit4 Be Prepared and Work Together」（令和5年10月実施）

(1) 実践の概要

教科書教材『Be Prepared and Work Together』では、題材として防災が取り扱われている。日本に住んでいる外国人に対する防災意識調査や、地震に遭った時の外国人の困りごと、外国人向けの防災訓練などが書かれている。この単元では実践Ⅰの中で出た「自己関連性を高めるための工夫」（【視点①】）、「意見や考えを形成するための対話の工

夫」(【視点③】)、「まとまりのある英語で表現する工夫」(【視点⑤】)を中心に指導を行った。この単元では、一馬という生徒に焦点を当て、学びを紐解いていきたい。

(2) 授業の実際 (第1次)

生徒が住む嘉島町は、以前は水害に悩まされた土地であり、総合的な学習の時間で水害について調べ学習を行った経験がある。そのため、生徒が題材を自分事として捉えやすいのではないかと考え、単元導入時に、嘉島町のホームページ等を活用し、題材との自己関連性を高める工夫を行った (【視点①】)

まずは、タブレット端末を用いて各自で情報収集を行った。嘉島町のホームページには、「地震・洪水ハザードマップ」、「安全対策10か条」、「揺れやすさマップ」などの情報があり、生徒は未知の情報を見つけるたびに、驚きの声を上げていた。次に、災

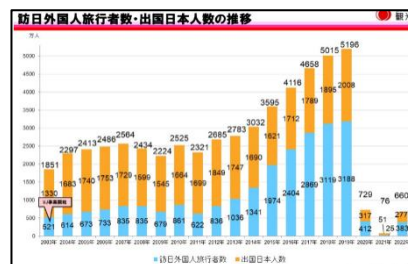


図15 生徒に示したグラフの一つ (出典：日本政府観光局)

害時の外国人支援に着目させるため、訪日・在留外国人、市町村ごとの外国人の推移のグラフ等を提示した (図15)。その後、新しいALTのダニエル先生は初の来日であり、日本語が全く理解できないことを話し、彼も嘉島町に住む外国人の一人であることを理解させた。そして、「新しいALTが安心して生活できるよう、嘉島町防災ガイドブックを書こう」という目標を告げ、単元の学びをスタートさせた。

図16に、一馬が書いた振り返りを示す。一馬はALTに対する思いと自分の防災意識を関連付けていることが分かる。これは、導入時に題材と生徒の身近な話題や経験を関連付ける工夫を行ったことで、題材に関する自己関連性が高まった事例といえよう。

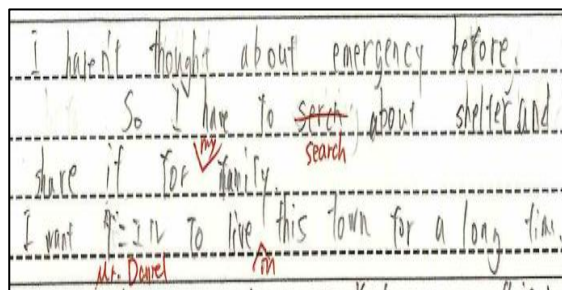


図16 一馬が書いた振り返り

次時では、まとまりのある英文を書くための指導を行った (【視点⑤】)。実践Iの段階で生徒に対し、「まとまりのある英文」とはそもそも何なのかを指導していなか

「まとまりのある英文」を書くために

- ・モデル文を参考にする
- ・教科書本文や友達の見解を参考にする (引用するための表現を活用しよう！)
- According to ~, / The textbook says, ~, / In ~'s opinion, ~, / OO says, ~, など
- ・賛否の伝え方について知る
- 【賛成】I agree with ~, / I have the same opinion. 【反対】I don't agree with ~, / I have a different opinion. など
- ・文の始め方、例の挙げ方について知る (I don't think ~, I have ~ reasons. First, ~, Second, ~, Third, ~.)
- ・例示する方法を知る (For example, / such as ~ など)
- ・文の終わり方について知る (So, Therefore, In conclusion, Thus, など)

パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
主張	主張	主張	主張	主張	主張
理由	理由	理由1	理由1	理由1	理由1
		理由2	具体例1	具体例1	具体例1
		まとめ	理由2	具体例2	理由2
			まとめ	まとめ	具体例2
					まとめ

図17 生徒に配布したプリント

った反省を踏まえ、モデル例が6つ示された資料を配布した (図17)。パターン1から6にかけて書く項目や内容が増え、生徒にとって挑戦しがいがあるものとなっている。

また、実践 I で生徒が ALT に向けて英語で書いた手紙を返却し、各自で自分の課題点を洗い出していた。生徒が書いた振り返りには、「自分の主張を述べた後に理由を付け加えることができていなかった」「具体例を挙げることができていなかった」「今まで習った文法や表現を活用できていなかった」などの記述が見られた。

(3) 授業の実際 (第2次)

第2次では、教科書を読んで把握した内容に基づき、自分の考え等をまとまりのある英文で書く言語活動に取り組んだ。実践 I で出た課題克服に向け、「①考えをもつ→②対話→③考えの再構築→④英文を書く」という流れを軸とし、単元を構想した。

まずは、Scene1 での実践である。外国人を対象にした防災に関するアンケート項目（「1. 避難所の場所」「2. 災害用非常食の必要量」「3. 火災時の連絡先」「4. 消火器の使い方」を知っているかどうか）とその結果が示されている。教科書を読み終え、「There are four questions. What will you tell Mr. Daniel at first? And why?」という発問を行った。生徒は自分の考えとその理由などを簡単なメモでまとめ、対話を通して意見の交流を図った（【視点③】）。ペアを複数回変更し、自分にはなかった考えや取り入れたい他者のアイデアなどを適宜メモ書きさせた後、全体での共有の時間を確保した。項目ごとに教師と数名の生徒が英語でやり取りを行い、生徒が発話した内容を黒板に板書し、質問項目全てに関する意見を俯瞰的に見ることができるようにした (図 18)。

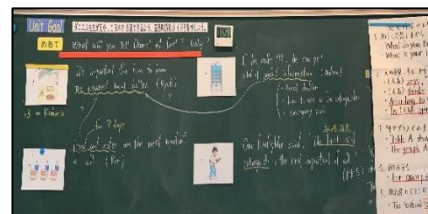


図 18 授業の板書

一馬は質問項目 1 (避難所の場所) を選んでおり、咲との対話の中で「He should know where the nearest local shelter is.」と発言した。それに対し、咲は「Food and water are the most important.」と述べた。その後の幸子との対話の中で、幸子は「He can get food and water at the shelter. He needs a safe place.」と発言した。一馬はパターン集を活用し（【視点⑤】）、自分の意見を英語で書いていった。

一馬が書いた英文と振り返りの一部を図 19 に示す。一馬は対話を通して自分の意見に自信をもったこと、

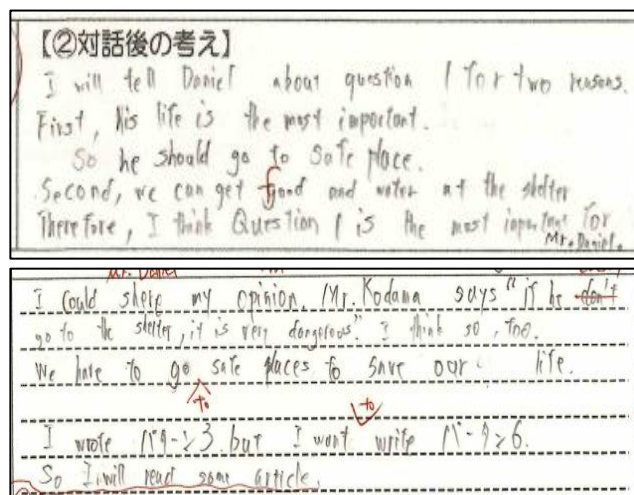


図 19 一馬が書いた英文と振り返り

そして次はさらにレベルの高いパターン6に挑戦するために英語の記事を読んでいきたいということを書いている。このように、「問い」に対して異なる意見・考えをもつ生徒同士が対話を重ねたことで、新たな視点で「問い」を捉えなおす姿があった。また、今の自分の英語力を把握し、これから取り組むべきことへも言及している。この姿は主体的に自分の意見や考えを英語で発信しようとする姿そのものであると捉える。

次に、Read and Think 1での実践を示す。日本に住む外国人が地震の被害にあった際の経験談が書かれた英文である。教科書の内容理解を終えた後、「What should Mr. Daniel know? Please tell him three important things.」という学習課題を提示

した。生徒は自分の考えとその理由などを簡単なメモでまとめ、ペアと全体での対話を通して意見の交流を図った（【視点③】）。その後、生徒とALTが一对一で対話を行う場面を確保した。

図20は一馬のワークシートである。ペアでの対話を繰り返し、意見が変容したことが分かる。そして、一馬はALTに自分の思いを英語で伝えた。その対話の一部を図21に示す。

ALTの「近所の人と仲良くなるためにはどうすればよいのか」という質問

(①)に対し、一馬は②のように返答に困っていた。そこで教師が③のように全体に投げかけると「greet (あいさつ)」という案が浮かび、一馬はALTに対して④のように返答した。

ALTとの対話を終え、一馬は自分の考えを英語で書いた。一馬が書いた英文を図22に示す。対話を通し、「近所の人と友達になるためにはあいさつをする必要がある」とい

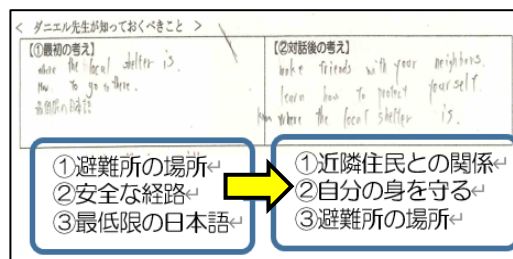


図20 一馬のワークシート

A: So, please tell me three important things.
 S: Sure. First, you should make friends with your neighbors.
 A: That's a nice idea, ①but how?
 S: ②Oh.... wait
 T: ③Everyone, how do you make friends with your neighbors?
 生徒: あいさつ!
 T: In English?
 生徒: greet!
 T: Thank you, everyone.
 S: ④Ok, you should greet (your) neighbors. If you greet, you can make friends.



図21 第6時の授業記録 (AはALT、Tは教師、Sは生徒を示す)

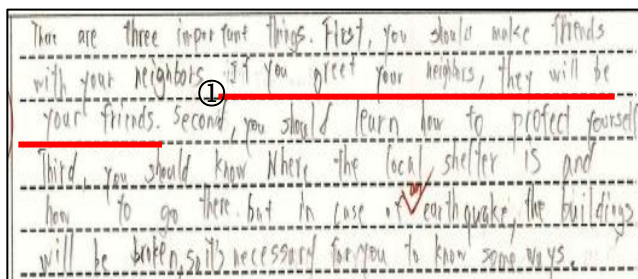


図22 一馬が書いた英文

う視点を獲得した一馬は、そのことを具体例（下線①）として英文の中で書いている。これは、対話を通して自分の意見や考えを再構築し、内容面でまとまりのある英語を書くことができた事例と言えるだろう。

(4) 授業の実際（第3次）

第3次では、ALTに向けて嘉島町防災ガイドを制作した。活動の手順を図23に示す。英語でまとまりのある文を書くには、英語の論理的な思考に合った構成が必要である。そこで、考え等を整理するためのアウトライン用のプリント（図24）を配布した（【視点⑤】）。

1. アウトラインを書く
2. アウトラインを英語で伝え合う
【内容面での向上】
3. 中間指導
【言語面での向上】
4. アウトラインを英語で伝え合う
【内容面・言語面での向上】
5. アウトラインの再構成
6. 防災ガイドを書く

図23 活動の手順

一馬が書いたアウトラインとガイドブックを図25に示す。アウトラインを使用したことで、段落ごとに自分の主張を整理することができている。その結果、英文も段落ごとに主張点が明確で、全体を通して内容面でまとまりのあるものとなっている。

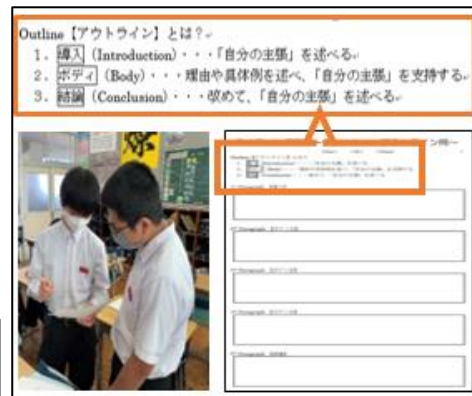


図24 アウトライン用のワークシートと、アウトラインを用いて英語で伝え合う様子

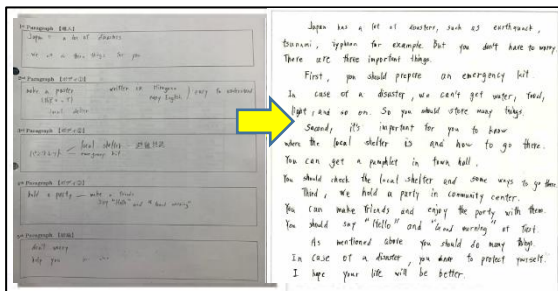


図25 一馬が書いたアウトラインとガイドブック

導入	Japan has a lot of disasters, such as earthquake, tsunami, and typhoon. But you don't have to worry. There are three important things.
ボディ1 【防災バッグ】	First, you should prepare an emergency kit. In case of a disaster, we can't get water, food, light, and so on. So you should store many things.
ボディ2 【避難所】	Second, it's important for you to know where the local shelter is and how to go there. You can get a pamphlet in town hall.
ボディ3 【地域交流】	Third, we hold a party in community center. You can make friends and enjoy the party with them. You should say, "Hello" and "Good morning" at first.
結論	As mentioned above, you should do many things. In case of a disaster, you have to protect yourself. I hope your life will be better.

実践Ⅰ、Ⅱでは、「読むこと」と「書くこと」の技能統合型の言語活動を中心に据えて単元をデザインした。その結果、社会的な話題に関して書かれた英文を読んで把握した内容に基づき、自分の意見や考え、その理由をまとまりのある英語で書く力を徐々につけることができた。一方で、「聞くこと」と「話すこと」の言語活動が十分に確保されていなかった。4技能を統合的に育成することを目指し、実践Ⅲでは「聞くこと」と「話すこと」の技能統合型の言語活動を中心に単元構成を行った。

3 実践Ⅲ「Unit5 A Legacy for Peace」(令和5年12月実施)

(1) 実践の概要

教科書教材『A Legacy for Peace』は、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンジーを扱った内容である。実践Ⅲでは、「聞くこと」と「話すこと」の技能統合型の言語活動である「リテリング」を中心に据え、単元構成を行った。佐々木(2020)は、「リテリングとは、読んだり、聞いたりしたことを、何らかの補助的なメモ等を見ながら、第三者に伝える活動である」と述べている。つまり、理解した内容を自分の言葉で発信する言語活動であり、本主題の達成に資するものであると言える。

(2) 授業の実際(第1次)

単元導入時に、インドに関するマッピングを行い、ガンジーの母国であるインドとの自己関連性を高める工夫を行った

(【視点①】)。まずは、インドに関する既存の知識を生徒から引き出していった。生徒からは「curry, Hindu, technology,

math, elephants」など、社会科等で学んだ様々な言葉が出てきた。その後、図26の写真を提示し、生徒が住む嘉島町との関連を図ることを試みた。その際の授業記録の一部を図27に示す。

以上のように、自分たちの生活とインドの実態を重ねる工夫を行ったことで、①のように生徒は一見遠い存在に思えるインドへの興味関心を高めることができた。

今単元の目標を、『後輩が来年この単元を学習するときに視聴する、「ガンジー紹介ピ



図26 生徒に示した写真

T : What are the women doing?
 S : They carry (are carrying) water.
 T : That's right. In India, women go to the river to collect water. What do you think?
 S : きっとそう
 T : I think so, too. How about in Kashima town? Do you go to the river to collect water?
 S : No. We can get clean water, ただで。
 T : That's right. You can get clean water for free. What do you think?
 S : ①I think we are lucky.

図27 第1時の授業記録
(Tは教師、Sは生徒を示す)

デオ」を制作しよう』と設定した。聞き手（後輩）にガンジーについて学ぶきっかけを与え、もっと知りたいという興味関心を喚起することを狙い、言語活動を行う際の必然性や相手意識をもたせる工夫を行った（【視点④】）。その時間に生徒が書いた振り返りの一部を図28に示す。この記述から、生徒の中に言語活動に取り組む必然性や相手意識が芽生えていることがわかる。

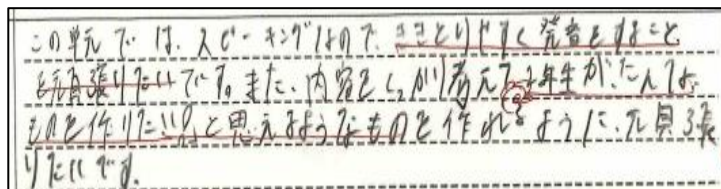


図28 生徒の振り返り

(3) 授業の実際（第2次）

第2次では、教科書教材『A Legacy for Peace』を英語で聞いて内容を理解し、把握した内容に対して感じたことや考えたことを付け加えて他者へ伝えるリテリング活動に取り組んだ。ここでは、Scene 1（第2時、第3時）での実践を示す。第2時の活動の手順を図29に示す。本時のめあてを、「ジョシュの発表を聞き、ガンジーを紹介するために必要な事実（Fact）をメモでまとめよう」と設定した。言語活動の目的・場面・状況を設定することで焦点化してリスニング活動を行い、内容を適切に理解させることを狙いとした（【視点②】）。本時でいえば、「ガンジーを紹介するために」という目的があるため、その目的達成に必要な事実や情報を聞き取ればよいということになる。1st Listening では、生徒は自分が聞き取った事実等をガンジーの写真の周辺にキーワードで整理していった。生徒同士で聞き取れた内容を確認しあった際、「“This is a picture I found on the Internet.” というジョシュの発言は、ガンジーを紹介する際には必要のない情報だと思う」といった発言も見られた。このことは、言語活動の目的等を生徒が意識したことで、目的等に応じて必要な情報か否か判断しながら適切に内容理解を行うことができている事例と言えるだろう。その後は、全体でのQAや聞き取りの視点を与えてリスニングを重ね、生徒から出された事実に関するキーワードをもとに、教師が板書を行った。次時で生徒の考えや問いから授業を展開するために、振り返りシートに感想や疑問点を書かせた。

1. 1st Listening
2. 生徒同士で内容確認
3. 2nd Listening
4. 全体QAで内容確認
5. 3rd Listening
6. 聞き取りの視点を提示
7. 4th Listening
8. 音読活動
9. 5th Listening
10. 感想をやり取りする
11. 振り返り

図29 活動の手順

第3時の活動手順を図30に示す。活動3では、生徒は前時に聞き取った事実をもとにリテリングを行い、ペアでフィード

1. 前時の振り返り
2. Teacher Talk
3. 1st Re-telling
4. Sharing ideas
5. Teacher Talk
6. メモの改善
7. 2nd~4th Re-telling
8. 振り返り記入

図30 活動の手順

バックを行った。まとまりのある英語を話すためには、「事実」だけでなく、その事実に対する「意見や考え (Your idea)」が必要である。活動4では、振り返りシートの内容をもとに意図的指名を行い (【視点⑥】)、生徒の発言を板書していった

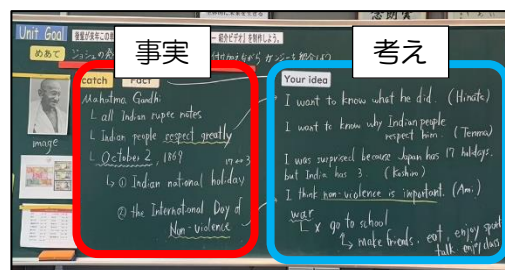


図3 1 事実と考えをまとめた板書

(図3 1)。生徒は、自分が書いている事実に関連した意見・考えをワークシートに書き足していった。生徒の考えの中に、「I think non-violence is important.」というのがあり、非暴力は大切だという考えの理由を形成するため、対話の場を設定することとした (【視点③】)。その時の授業記録の一部を図3 2に示す。教師の発問 (①) に対し、初めは考えをもつことができていなかったが、その後の補助発問 (②) を皮切りに、S 1は③のように「war (戦争)」という点に着目した。その後、図3 3のスライドを提示したことで、戦争中の子どもの生活と日本に住む自分たちの学校生活を関連付け、S 2、S 3、S 4は「non-violence is important」に対する理由付けをすることができている (④、⑤、⑥) ことが窺える。

その後、活動6において互いのメモを比較したり、よくできている表現を例示してどのような点が優れているか話し合ったりするための対話

T : ①Why is non-violence important?
 S 1 : I think...
 T : I see. I'll ask you another question.
 ②Is the world peaceful?
 S 1 : No.
 T : Why do you think so?
 S 1 : ③Because (there are some) wars.
 T : That's right. (スライドを提示)
 Can children go to school in the war?
 生徒 : No, they can't.
 T : You're right. I think you are lucky because you come to school every day. And there are many things you can do at school. What can you do at school?
 S 2 : ④We can make friends.
 T : That's nice. What do you think?
 S 3 : ⑤We can eat school lunch.
 T : Good. What do you think?
 S 4 : ⑥We can enjoy interesting classes.
 T : Thank you. As you said, you can do a lot of things at school. So, non-violence is important.

図3 2 第3時の授業記録 (Tは教師、Sは生徒を示す)



図3 3 提示したスライド

の場を設けた（【視点③】）。ここからは、美咲という生徒の学びに焦点をあてていくこととする。美咲は、友人との対話を繰り返す中で、自分が把握していなかったキーワードを書き足したり、関連するキーワードや語句を棒や矢印を用いてつないだりして、メモを改善していった（図34）。

その後は複数回ペアを替え、リテリング活動に取り組んだ。美咲はメモをもとにリテリングを行い、ペア活動の相手から内容面や言語面での助言を受け、さらにメモや発話内容を発展させた。4回目のリテリングの際には、タブレット端末を用いて生徒同士が互いに撮影し、教師に提出した（図35）。

以下に、美咲の1回目と4回目の発話内容を示す。

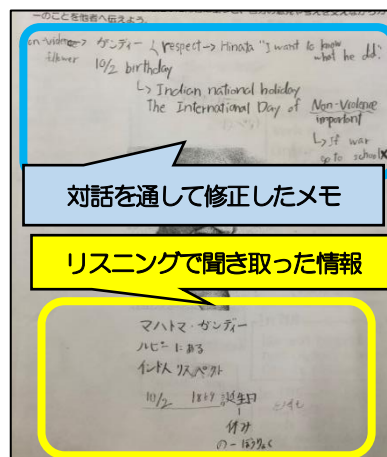


図34 美咲のメモ



図35 撮影の様子

【美咲の1st performanceにおける発話内容】

Hello. Do you know who is this (this is)? He is Mahatma Gandhi. He is (His) image (is) printed on all Indian rupee notes. He's a person Indian people respect greatly. He was born on October 2, 1869. His birthday is (an) Indian national holiday. It's also the International Day of Non-violence.

【美咲の4th performanceにおける発話内容】

Hello. Do you know who this is? His name is Mahatma Gandhi. His image is printed on all Indian rupee notes. I (was) surprised to know that because Japanese notes are different. For example, Yukichi, Higuchi Ichiyo, and Noguchi. Indian people respect him greatly. He was born on October 2, 1869. His birthday is special for two reasons. First, it is (an) Indian national holiday. Indian people have only three national holidays. His birthday is one of them, so I (was) very surprised. I think we are lucky because we have seventeen holidays in Japan. Second, it is the International Day of Non-violence. Ami says, "I think non-violence is important." I think so, too. If we start war, we can't go to school. We can do many things at school. For example, we can make friends, eat school lunch, or enjoy many interesting classes.

美咲の1回目と4回目の発話を比較すると、以下の三つの点で向上が見られる。

- ①事実だけでなく、自分の考えや友人の考えを付け加えている。
- ②言語面（文法面・語法面）での誤りが減っている。
- ③友人が使用していた英語表現を取り入れている。

これは、複数回ペアを変えてリテリングを行う中で、生徒が多様な考えに触れたことで内容面が向上しただけではなく、言語面でのフィードバ

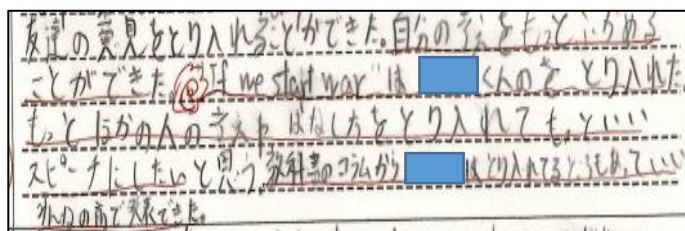


図36 美咲が書いた振り返り

ックを行ったことで正確性も高まったことが要因として考えられる。図36に美咲が書いた振り返りの一部を示す。

美咲は、「戦争になったら」と英語で表現したいと思っていたが、自分の中にある英語表現ではうまく表現することができなかった。しかし、友人との対話を通して、「If we

1. 発話情報の選定
2. リテリング①
3. 筆記
(Feedback①生徒同士→②教師)
4. リテリング②
5. ビデオ撮影
6. 振り返り

図37 活動の手順

start war」という表現を友人から学び、自分の発表の中に取り入れることができた。結果として内容面・言語面でまとまりのある英語を話すことができたのである。



図38 生徒に配布したワークシート

Scene 2、Read and Think で

も同様の流れでリテリング活動を行っ

た。ガンジーを紹介する活動に継続的に取り組んだことで、生徒は事実と考えを交えながら英語でまとまりのある内容を話す力を徐々に伸ばしていった。

(4) 授業の実際 (第3次)

第3次の活動の手順を図37に示す。活動1では、まとまりのある内容を英語で話すために、これまでのリテリング活動において発話してきた情報をもう一度整理することにした (【視点⑤】)。ここでは、メモの再構築のためにワークシートを4種類準備した

(図38)。美咲はレベル2のワークシートを選択し、発話情報をメモでまとめていった。単元を通してリテリングを行ってきたため、美咲は内容面では十分にまとまりのあるメモを書くことができていくことが分かる (図39)。

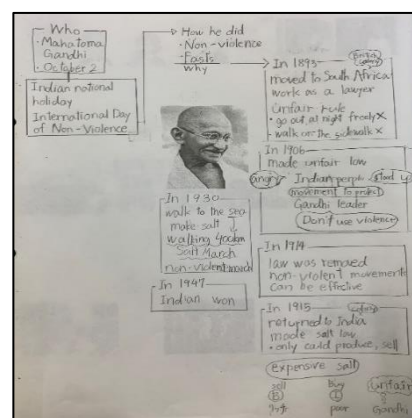


図39 美咲が書いたメモ



図40 生徒が互いに訂正している様子

活動3では、リテリングで自分が発話した英語を、文字として書きおこす作業に取り組んだ。「文法面や語法面での正確性の向上」を図り、言語面でまとまりのある英語で話すことを狙いとしたものである（【視点⑤】）。まずは生徒同士で互いの英語の誤りを訂正させ、その後に教師が訂正する流れをとった。生徒は辞書や教科書を使用したり、分からない箇所は互いにたずね合ったりして誤りを訂正していった（図40）。その後、返却された英語を確認した後、再びリテリングの練習を重ねた。ビデオ撮影の際には、どの生徒も内容面・言語面でまとまりのある英語を、メモを片手に堂々と話す姿が見られた。以下に、美咲の発話内容を示す。

【ビデオ撮影時における美咲の発話内容】

Hello. Let me talk about this man. Do you know who this is? His name is Mahatma Gandhi. He was born on October 2, 1869. His birthday is special for two reasons. First, it is on (an) Indian national holiday. Do you know Indian people have only three national holidays? His birthday is one of them, so I was very surprised. Second, it is the International Day of Non-violence. He worked for Indian independence. Do you know how he did it? He thought non-violence was important. He also went on fasts. A fast means eating little or no food. Now, I'll talk about his life in South Africa. In 1893, he moved to South Africa to work as a lawyer. It was under British rule, so there was a lot of discrimination. For example, Indian people could not go out (at) night freely or walk on the sidewalk. In 1906, the British people made (an) unfair law. It made Indian people angry. They decided to stand up. Gandhi was the leader, so he decided to lead the movement. His message was, "Don't follow the law, but don't use violence." In 1914, the law was removed. It means non-violent movements can be effective. In 1915, he returned to India. India was also (a) British colony. There was a law for salt. According to the law, only British people could produce or sell salt. As a result, British people became rich. On the other hand, Indian people became poor. Gandhi thought it was unfair. In 1930, he walked to the sea and made salt. He walked for 400 kilometers. I think it's unbelievable. This non-violent march is called the Salt March. In 1947, India won independence. I think Gandhi's strong will changed Indian people's life. What do you think of Gandhi's life? I think non-violence is important. If we start war, we can't go to school. We can go to school every day and enjoy many things. For example, we can make friends, eat school lunch, or enjoy many interesting classes. So, I think Gandhi's idea is wonderful. You can learn many things from his life. Please enjoy learning unit 5. See you.

この発話内容から、「聞くこと」と「話すこと」の技能統合型の言語活動を繰り返したことで、理解した内容に自分の考えを交え、まとまりのある英語で表現する力が育成されたと考える。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

研究の成果と課題を明らかにするため、令和5年12月に、3学年3クラスを対象にアンケートを実施した。その結果を踏まえて、考察を深めていきたい。

「聞いたり読んだりして把握した内容に対する自分の意見や考えを、まとまりのある英語で話したり書いたりすることはできますか」の質問に対する結果を図4-1に示す。

令和5年3月と12月を比較

すると、肯定的な回答をした生徒の割合は51ポイント値が伸びた。その理由に関する記述アンケートでも以下のような回答が見られた。

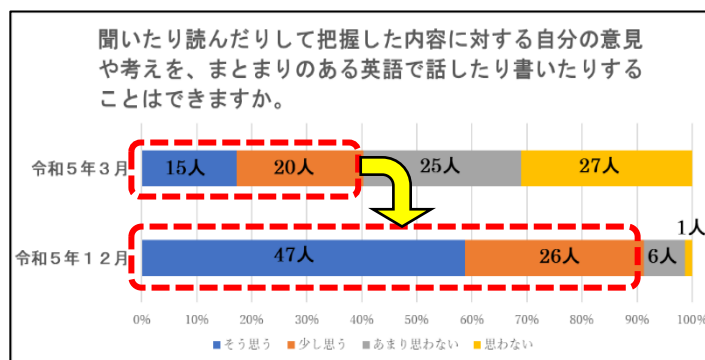


図4-1 英語学習に関するアンケート

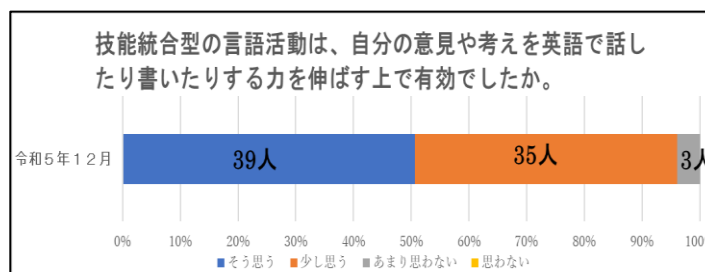


図4-2 英語学習に関するアンケート

- ・「まとまりのある英語で書く」と聞いて、初めは自分には無理だと思った。でも、国語の授業で学んだ「総括型」を使うと、うまく書けた。他の教科で学習したことが生かされてうれしかったし、自分にもできて達成感を感じることができた。(正樹)
- ・3年生になって、教科書本文や友達の見解に対する自分の考えを、今までに習った表現や語句を使って、論理的に英語で表現できるようになったと思う。最近、テレビでニュース番組を見ている時も、自分の中での意見を考える習慣がついてきた。(花音)
- ・3年生の教科書の内容は今まで以上に難しかったです。聞く、読むだけで終わったら、内容に対して「自分はこう思う」と考えることはできないと思う。そこから話したり書いたりする中で、何度も教科書を読み返すことで内容を深く理解でき、自分の意見をもつことができたし、友達の見解にも関心をもつようになった。(健人)

また、「技能統合型の言語活動は、自分の意見や考えを英語で話したり書いたりする力を伸ばす上で役に立ちましたか」という質問の回答結果を図4-2に示す。「そう思う」が39人(51%)、「少し思う」が35人(45%)と、ほとんどの生徒が技能統合的の言語活動の効果を実感していることが分かる。その理由として、以下のような記述があった。

- ・読む、聞くだけで終わらず、そこから話したり書いたりすることで、相手を意識した活動になったと思う。1、2年生の頃も教科書を読んだ後に意見を伝え合う活動はやってきたけど、自分中心の英語だったと思う。3年生になって、コミュニケーションの相手を意識したことで、相手が何を知りたがっているのか、どんな英語の表現や順番なら理解しやすくなるかを考えるようになりました。(歩美)
- ・技能統合型の言語活動では、書く・話す活動が多く、今まで習った表現を活用したことで、復習にもなったし、自分の中で定着した。また、ペア活動を繰り返す中で友達や先生が話している英語や、振り返りシートで友達が使っていた表現を知れてよかった。自分のライティングや発表に取り入れると、自然と使えるようになった。(詩織)
- ・対話をする中で、自分になかった意見が聞けたり、そこから新しい考えが生まれたりしたので、とてもためになった。また、意見を交わす中で新しい疑問も生まれ、活動していてとても楽しかった。(大智)
- ・技能統合型の言語活動でアウトプットすることを繰り返す中で、前置詞の使い方や文法上の細かいルールに関して疑問が出てきて、今の自分の課題が分かった。アウトプットを積み重ねたからこそ、気付けたのかなと思います。I want to try more! (聡子)

以上のことから、本研究の視点が上手く機能し、技能統合型の言語活動を積み重ねたことで、生徒たちの「自分の意見や考えを英語で発信する力」の育成につながったことが明らかになった。

2 研究の課題

「社会的な話題に関して、自分事としてとらえることができますか」という質問を行った結果を図4-3に示す。「あまり思わない」

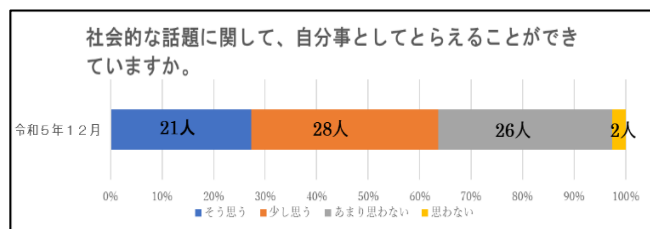


図4-3 英語学習に関するアンケート

「あまり思わない」が26人(34%)、「思わない」が2人(3%)という結果となり、やはり生徒にとって社会的な話題を自己と関連付ける「自己関連性」に大きな課題を残した。これは、教科書本文で扱っている社会的な話題が、生徒の生活実態と大きくかけ離れていることが原因であると考えられる。今後は、生徒の興味関心や生活実態をより詳しく把握し、教科書題材とどのように関連付けていくかが課題である。また、教科書題材を用いて、生徒にとってより魅力的な単元課題を提示することで、課題解決につながると考える。その視点を忘れず、継続した授業改善が必要である。

おわりに

「生徒の可能性を信じること。」これは、授業研究を進めていく中で、改めて実感したことです。教師になったばかりの頃の私の授業づくりの主眼は、「いかに生徒の失敗を減らし、滞りなく授業が流れていくか」という点に置かれていました。生徒が高いところに登るために、丈夫な梯子を立ててやっていたのです。

生徒の実態を把握し、適切な学習課題を設定したうえで適切な手立てをすれば、生徒たちはいともたやすく教師の想像を超える力を発揮することを、生徒たちから改めて学びました。

コロナ禍を経た今、「授業を通じて、これからの社会を生きていく力を育成すること」が、「学校・教師」の役割であると信じ、これからも授業づくりに励んでいきたいと思えます。最後になりましたが、本論文に対していただきました貴重なご意見やご指導を今後の研究にぜひ生かしていきたいと考えています。誠にありがとうございました。

《参考文献》

- 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂出版株式会社 2018年
- 文部科学省 『平成28年度英語教育改善のための英語力調査事業報告』 2017年
- 国立教育政策研究所 『指導と評価の一体化のための評価に関する参考資料 中学校外国語』 東洋館出版社 2020年
- 三宮真智子 『メタ認知 あなたの頭はもっとよくなる』 中央公論新社 2022年
- 奈須正裕 『「資質・能力」と学びのメカニズム』 東洋館出版社 2017年
- 松村昌紀 『タスクを活用した英語授業のデザイン』 大修館書店 2012年
- 和泉伸一 『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業』 アルク 2016年
- 佐々木啓成 『リテリングを活用した英語指導』 大修館書店 2020年